

明日にチャレンジ! ひらこう未来を君たちの手で!



ロータリー青少年指導者養成プログラム
'06春のライラ報告書

開催日：2006年5月3日(水)～5日(金)

場 所：大阪府立青少年海洋センター

主 催：国際ロータリー第2660地区青少年活動委員会

ホスト：吹田江坂ロータリークラブ

目 次

2006年春のライラ	1
RYLAプログラム	2
来賓・役員	3
開 講 式	4
開会宣言・挨拶	5～10
基 調 講 演	11～16
春のライラ班・部屋割り表	17
PHOTO REPORT	18～23
卓話『ロータリー創始者の青春』	24
ア ン ケ ー ト	25～27
みんなで語り合おう	28～32
春のライラに参加して	33～34
閉 講 式	35
挨拶と修了証書授与	36
講 評	37
RYLA旗引継と秋のライラPR	38
閉 会 の 辞	39
クラブ別登録一覧表	40
収支決算報告書	41
RYLA委員会組織及び役割担当表	42



2006年 春のライラ

テーマ

明日にチャレンジ! ひらこう未来を君たちの手で!

春のライラの舞台は初夏の輝く海です!
初めてあった同世代の人たちとの団体行動や
海洋プログラムを通し、このライラの経験が
皆様の素晴らしい未来へのステップとなるべく、
ホストの私たちは願います。



ホストクラブ 吹田江坂ロータリークラブ

2006年RYLAプログラム

	第1日目 (5/3)	第2日目 (5/4)	第3日目 (5/5)
06:00		*起床 (6:30)	*起床 (6:30)
07:00		集合(7:00)朝の集い(広場) かまど後片付け	集合(7:00)朝の集い(広場) かまど後片付け
08:00		朝食 (食堂)	朝食 (食堂)
09:00		集合 (9:20)	卓話「ロータリー創始者の青春」 北山陽一 (吹田江坂RC) (9:00~9:30)
10:00		スタート (9:30) カッター体験 (海洋センター指導) (グループタイム含む)	グループタイム「討論会」 の説明会、サブテーマ決定 「討論会」「発表」 (9:30~11:00)
11:00			部屋の清掃、点検
12:00		昼食 (食堂)	昼食 (食堂)
13:00	集合・登録受付 (事務所前) *ようこそRYLAへ (研修室 太平洋)	救急講習会 (体育館) (日赤大阪府支部指導)	閉講式 グループ別総括発表 ライラ旗の引継ぎ 秋のライラのPR
14:00	開講式 (研修室 太平洋)		解 散
15:00	基調講演 「日本の技術でヨーロッパは 一つになった」 宇賀克夫氏 (研修室 太平洋)	インタレストタイム (宝物探し、ビーチフラッグ、 パン食い競争、砂ぞり)	
16:30	オリエンテーション (10分) (海洋センターより) (研修室 太平洋) グループタイム (宿泊棟へ移動)		
17:00	カレーづくり (17:30)	バーベキューパーティー パーティー後片付け	
18:00	夕食 (自炊)		
19:00	入浴 (19:30~)		
20:00	マリンプログラム説明 (20:30) (センター) (太平洋)	キャンプファイア点火式 * ゲーム・ソング	
21:00	グループタイム	入 浴	
22:00	スタッフミーティング(資料館) * 消灯 22:30	スタッフミーティング(資料館) * 消灯 22:30	

来賓・役員

● 国際ロータリー第2660地区

ガバナー	神崎茂	(大阪西)
ガバナーエレクト	岩田宙造	(大阪南)
第2組ガバナー補佐	高津嘉夫	(高槻西)
地区代表幹事	高士雅次	(大阪西)
ローターアクト委員長	高橋敏朗	(守口)
インターアクト委員長	田中啓之	(大東)
次期ホストクラブ会長	岡本孝子	(大阪そねざき)

● 大阪府立青少年海洋センター所長

片岡弘尚

● 国際ロータリー第2660地区青少年奉仕部門

青少年活動委員会

委員長	泉博朗	(大阪住吉)
副委員長	田中信明	(大阪鶴見)
委員・地区幹事	前田葉子	(大阪リバーサイド)
委員	北山孝和	(大阪中央)
委員	澤田順司	(高槻西)
委員	柳川義行	(吹田)
委員	金本垣二郎	(大阪天王寺)
委員	宮次重郎	(大阪本町)
委員	西上博幸	(吹田江坂)
委員	津本清次	(大阪淀川)
委員	杉本昌煥	(大阪北梅田)
委員	谷間庸子	(大阪そねざき)
委員	水崎勝	(寝屋川)
委員	三原敏彰	(大阪東)

2006年 春のRYLA

(ロータリー青少年指導者養成プログラム)

『明日にチャレンジ！ ひらこう未来を君たちの手で！』

開 講 式

式 次 第

会 場：研修室 太平洋

司 会 渡 邊 眞

開 会 点 鐘	吹田江坂ロータリークラブ 会長	栢 本 淑 子
国 歌 斉 唱	ソングリーダー	延 秀 恵
ロータリーソング	ソングリーダー	延 秀 恵
開 会 宣 言	吹田江坂ロータリークラブ RYLA 実行委員長	田 中 襄 吉
歓 迎 の 挨拶	吹田江坂ロータリークラブ 会長	栢 本 淑 子
来賓紹介と挨拶	R.I.第2660地区青少年活動委員会 委員長	泉 博 朗
挨拶	R.I.第2660地区 ガバナー	神 崎 茂
	R.I.第2660地区ローターアクト委員会 委員長	高 橋 敏 朗
	大阪府立青少年海洋センター 所長	片 岡 弘 尚
閉 会 点 鐘	吹田江坂ロータリークラブ 会長	栢 本 淑 子

ロータリーソング

「奉仕の理想」

奉仕の理想に集いし友よ

御国に捧げん我等の業

望むは世界の久遠の平和

めぐる歯車いや輝きて

永久に栄えよ

我等のロータリー ロータリー

開会宣言



吹田江坂ロータリークラブ

RYLA実行委員長 田中 襄吉

皆様、こんにちは。

ようこそRYLAにおいでくださいました。

この素晴らしい五月晴れの天気も皆様を歓迎しているようです。

私達ロータリアンは、この時代に生きる青少年の皆様に対しお役に立ちたいと「青少年指導者養成プログラム」を開発、実施してきました。そして今日のために綿密な計画を立て、準備を行いましたので皆様には提供され

る各プログラムを十分お楽しみいただけるものと期待します。色々な人達と3日間共に過ごすこととなりますが、多くの人と知り合い友情を深めてください。

それではただ今より2005～2006年度春のRYLAを開講します。

テーマは「明日にチャレンジ、ひらこつ未来を君たちの手で！」



歓迎の挨拶



吹田江坂ロータリークラブ
会長 栢本 淑子

皆様今日は。

本日は国際ロータリー第2660地区により
ます「春のライラ」を、私ども吹田江坂ロー
タリークラブがホストとして開催させてい
だきますことを誇りに思っております。長い準
備期間を、神崎ガバナーをはじめ、関係ロー
タリアンの方々のお蔭をもちまして、ここに70数
名の青少年をお迎えし、実り多き諸行事が、
無事終了致します事を願っております。

特に青少年の皆様にとりましてこの3日間
の経験が、今後の人生に於きまして、少しで
もお役に立つことが出来ましたら嬉しく思
います。兎にも角にもこの3日間を、楽しく、
思い出深いものとなります様、お過ごし
ください。簡単ですが、歓迎の挨拶とさせていただきます。



ンジ! ひらこう未来を君たちの手

—第2660地区青少年活動委員会 ホストクラブ：吹田江坂ロータリークラブ



国際ロータリー第2660地区青少年活動委員会
委員長 泉 博 朗

本日は、ライラに参加していただき有難うございます。

ライラとは、Rotary Youth Leadership Awardsの頭文字をとったもので、日本では「ロータリー青少年指導者養成プログラム」と訳されており、ロータリーが行っている、さまざまなボランティア活動の青少年育成のための、プログラムのひとつです。

ロータリーとは、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、そして青少年奉仕をおこなっている団体でありまして、全世界168カ国に120万人のロータリー会員いわゆるロータリアンが、それぞれ世界の平和のためにさまざまなボランティア活動をおこなっているのです。その中でこのライラは全世界でおこなわれています重要な活動のひとつであります。

今回は、実体験を通じて、リーダーとして必要な、人間関係の向上を図ることを目的と

した体験型セミナーを実施いたします。また多くの留学生、香港よりおいいただきました国際ロータリー第3450地区のローターアクトの皆様方などを迎えて非常に国際的なライラになりましたことをうれしく思います。

どうぞ、楽しく、友好を持ってこの3日間を過ごしていただき、リーダーシップを身につけていただきたく思います。

チャレンジ! ひらこう未来を君た

国際ロータリー第2660地区青少年活動委員会 ホストクラブ：吹田江坂ロー



国際ロータリー第2660地区
ガバナー 神崎 茂

皆様こんにちは、ようこそこの場所にお集りいただきました。ロータリアンの皆様もご苦勞でございます。私を含めまして、せっかくの休日に、こちらにおじゃましております。ロータリーは、世界中に120万人のロータリアンがおりまして、特に国際平和ということのために色んな催しをやっております。特に皆様のような若い人達が立派な人間に育っていただくために、色んな若い人達のためのプログラムを実行しております。この3日間の催しもその一つでございます。どうか将来、皆様が職場であるとかプライベートであるとか、国際社会であるとか、色んな所ですでに活躍しておられると思いますが、世界平和のために、一つ心になってやっていただき、良い人に育っていただきたいのが、我々のプログラムの目的であります。この3日間は天気予報によれば、雨も降らずすばらしい日が続きますので、このシーサイドで大いにエンジョイしていただきたいのが私達の願いです。

この5月は、日本では一年中のベストシーズンで、天気の良い予報ですので楽しんで下さい。

こちらから見ますと、日本人が所々において外国人が大変多いと云う感じで、これもロータリーの特徴であります。人間の種類は色々あるようですが、皆が親しくなり、ひいては世界が平和でありますようにというクラブ活動を、我々は日頃一生懸命にやっておりますので、皆様もこの機会を通じて、しっかり世界平和のため、色んなことを勉強して、互に親しくなっていたきたいと思っております。この後で、講演がありますが、日本がヨーロッパに行き、フランスとイギリスの間のトンネルを日本の技術で作った話があります。日本は色んな所で、技術を使い活動、活躍していること、日本にも大変よいところがあると勉強して、しっかりお聞きいただきたいとお願いいたします。簡単でございますが、ご挨拶いたします。

挨拶

主催：国際ロータリー第2660地区青少年活動委員会 ホストク



国際ロータリー第2660地区

ローターアクト委員長 高橋 敏朗

皆さんこんにちは。

この連休の最中2泊3日の春のライラに参加いただきまして、ありがとうございます。今回は国際ロータリー第3450地区香港のローターアクトの皆さんも参加しています。

彼らは海外研修に日本のこの大阪、2660地区を選んで来られました。これはこの地区2660のローターアクトの皆さんが、この前11月に海外研修として香港に行って非常に良い関係で交流がなされた事の結果だと思っています。香港のローターアクトの皆さん海外研修の時はたいへんお世話になりました。この場をお借りしましてお礼申し上げます。この様にローターアクトクラブと言うのは親睦、社会、国際奉仕を通じて自己の研修を高めてそれぞれのリーダーとしての力を培って行くためのクラブです。この行事に海外研修、ライラ、ニコニコキャンプ、アクトの日、世界RACday等があります、この他に各クラブが独自に計画されて活躍しています。この地区ではローターアクトクラブが21クラブあり310名のローターアクト会員がいます。ここ

にお集まりの皆さんとも同じで18歳から30歳までの方なら何方でもローターアクトクラブに入れます。勿論この参加者の中にローターアクトの皆さんも参加しています。

これから、この3日間のセミナーを通じていろいろな事を学習してください。

ローターアクトにも地区の役員がおりまして、3日目にもう少し詳しくローターアクトの活動を話します。

そして今回の春のライラで研修されたことをもう一步進めて、ローターアクトクラブに入会してみようと思われた方は、たくさんの方が待っていますので、ご推薦いただいたロータリークラブを通じてご連絡をいただくか、本日参加しておりますローターアクトのメンバーに一声かけていただければ、ご案内をさせていただきます。

最後になりましたが、泉青少年活動委員長様ならびに今回のホストをしていただいております吹田江坂ロータリークラブの皆様には、貴重なお時間を拝借いたしまして、ローターアクトのPRをさせていただいたことを感謝申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

挨拶

主催：国際ロータリー第2660地区青少年活動委員会 ホストクラ



大阪府立青少年海洋センター
所長 片岡弘尚

春のライラの開催にあたりまして、施設を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。

ライラは1976年に日本ではじめてロータリーの266地区が実施されたと伺っておりますが、この伝統あるライラを、今年度も当海洋センターを会場として、開催して頂きましたことに感謝申し上げます。

ここ海洋センターは、海を舞台にヨットやカッターなど様々な海洋活動が出来る施設ですが、遠く淡路島や六甲山が望める豊かな自然環境の中で、青少年が夢やチャレンジ精神を育んでくれることを願って活動しております。

また、今日、子どもたちの生きる力を育むことが大きな教育的課題となっております。子どもたちはグループ体験の中で、人としての業を身につけていくものですが、今日の子供たちは、生まれてから今日までの成長過程でのグループ体験の希薄さがこういった課題を生んでいるのではないかと思います。そういった面でも、友達と寝食をともに活動をおこなう海洋センターでの生活は、子どもたちにとって有意義な学習の場でもあります。

今回の春のライラ、「明日にチャレンジ！ひらこう未来を君たちの手で！」をテーマに開催されますが、このテーマは、21世紀を担っていかれる皆さん方に対する大きな期待がこめられていると思います。ここ海洋センターでの新しい仲間との生活や様々な海洋活動のチャレンジ等を通してお互いの「信頼と友情」を深めて頂くとともに、自分を知る機会そしてステップアップする機会にして頂き、このテーマに応えられていかれることを期待しております。

最後になりましたが、この「春のライラ」が実り多いものとなりますよう職員一同精一杯お手伝いをさせていただきます。皆様のご活躍に期待してご挨拶とさせていただきます。

『日本の技術でヨーロッパは一つになった』



—日本の技術によるドーバー海峡トンネル実現—
講 師 宇 賀 克 夫

吹田江坂ロータリークラブのご依頼でドーバー海峡のトンネルのお話をさせていただきます。

トンネルは地下鉄、下水、鉄道などいろいろありますが、明石海峡大橋や黒部ダムのように、その威容が目に見えるものではない。地面の中に穴が開いているだけの殺風景なものです。しかし、完成したときの喜びは、ちょっと言葉では言い表わせないほどのものがあります。

東京のアクアライン、北新地まで入った東西線などは、シールド工法で工事がされていますが、シールド工法は、円筒状の鋼殻の中に人間が入って土を掘るものです。

ところでドーバー海峡をトンネルで結んで、陸続きにしようという計画は、今から240年も前に考えつかれたもので、1753年に、フランスの地質学者ニコラ・デマレがフランス国王ルイ15世に海底横断トンネルの計画を勧めたのです。

その50年後、フランスの鉱山技師マチュー・ファビエがナポレオン1世に提案、これが具体的に計画が立てられた最初だといわれています。これは海底トンネルに馬車を走らせる計画で、その照明用のランプ、人間や馬のための換気孔用の煙突、排水溝まで考えられていました。

その後、フランスの水路測量技師トム・ド・ガモンなどが、1833年～1869年までさまざまなアイデアを提案し続けました。浮き橋、大型

のフェリーボート、大きな鉄のパイプを海底に敷いたもの、トンネルなどです。

これからドーバー海峡で活躍したシールド工法について申し上げますが、昭和40年のはじめぐらいから多く使われはじめたこの工法も、最初は人間が土砂を手で掘ったり、ショベルで掘っていた。最近ほとんどが氷削りのようなカッターで掘っていく、下水、地下鉄、道路などに使われている工法です。

昭和30年代の終り頃までの地下鉄は露天掘で、地下鉄の電車が走る四角いコンクリートの構造物を作って、埋め戻す。あるいはカットアンドカバーといって、杭を打って、地面に鉄板を敷いて、上を車が通れるようにして、その下でトンネルを作るというやり方でした。

この工法で施工された地下鉄工事で大阪・天六のガス爆発事故が起こった以後、できるだけ地上に害を及ぼさないようにと、ますますシールド工法が増えてきました。この元祖はイギリスで、百数十年前にブルネルが開発しました。岩盤を掘る機械は50年ほど前にアメリカ人のロピンスが開発をしました。

今回のドーバー海峡は、川崎重工、三菱重工、小松さんも若干関係して掘ったのですが、この技術が生まれたのは欧米で、他の工業製品と同じように、日本でブラッシュアップされて、生れ故郷の役に立ったのです。ドーバー海峡の機械は日本の軟弱な地盤を掘るものと、岩盤を掘る両方の機能を持つ機械です。ヨーロッパはインフラが昔から完備しておりましたが、日本がやりだしたのは昭和30年の後半からで、今さら町を掘り起こすわけにはいかないというのでシールド工法が発達した。水のよく出るところで施工し技術改良したお蔭で、ドーバー海峡で日本の機械が採用されたのです。

ドーバー海峡と青函トンネルを比較すると、トンネルの全長は50キロメートルでほぼ同じ、深さはドーバー海峡の方が浅い。青函トンネルの一番深いところは水深240メートル、ドーバー

海峡は100メートル、ただ海峡の下は青函は23キロ、ドーバー海峡は38キロです。

トンネルができますと、パリ～ロンドン間の所要時間が3時間、フェリーでは6時間45分、ホーバークラフトで5時間45分、飛行機で3時間、非常に交通の利便がよくなり、ヨーロッパ統一の象徴と云える大きなプロジェクトです。

トンネルの掘り方について申し上げますと、開削工法は杭を打って、自動車の通る路面に鋼板をかけて、その下にコンクリートの構造物を作って埋め戻す、これは昭和40年代のはじめまでの工法です。手掘り式は円筒の中にデッキがあり、その上に作業員が乗ってスコップやショベルで掘る、掘るのを少し楽にしようと、ショベルをつけたものもできておりますが、初期のものです。

当初のシールド工法は、トンネルの中に水が出ますので、圧搾空気を用いて水が出ないように、前面の土が崩れないようにしていた。しかし作業員にとっては、飛行機に乗るよりも10倍ぐらい高い3から4気圧をかけるので、非常にきつい。また杭内の高圧の空気が地面を抜けて、どこかのマンホールとか地下室に入ると酸素がなくなって、それを吸った人が酸欠になる、あるいは薬液で地盤を改良する、あるいは凍結する。地下水を下げるということをしていろいろ行なって、山が崩れてこないようにしていたんですが、環境問題、高価であるといった問題で、だんだん山をとめるのは空気や薬に頼らないでいこうというので、泥水式といって、回転カッターの1～2メートル後に壁を作って、その中に泥水を張る、建築でもやりますが、ベントナイトの液を詰めて地上から送って、削った土を泥水と一緒に出してやろうというものです。

昭和55年以降は水を使わずに、壁の中に加泥剤を入れて、スクリーコンベアで出していこうという土圧式、あるいは泥土加圧式などの機械が、日本で非常に発達しました。

岩盤を掘る場合、昔は青の洞門のように、こつこつと鑿で何十年もかけて掘っていったのですが、アメリカで開発した機械は、ぐるぐる回る回転円盤に算盤玉のようなものをつけて、岩盤に押しつけて、岩を煙草の箱ぐらいの大きさにして掬い取って、コンベアで運ぶものです。

これとシールド工法はどう違うかということ、掘ったあとは岩盤のままで、岩盤に反力をと

って機械が前進していく。シールドの場合はやわらかい地盤に対処するために、セグメントと云うコンクリートのブロックを円形に組み、それに反力をとって機械を前に進めます。

日本の山は断層が多く、やわらかいところもあれば堅いところもある。青函トンネルも黒部ダムでもトンネルに非常に難儀をしまして、人力でダイナマイトで掘ったわけです。これは非常に危険であるし、作業員も少なくなっており、私のおりました川崎重工が通産省から補助金をいただき、シールドとトンネルボーリングマシンの合いの子みたいなものを開発しろということで、開発したのが全地質対応トンネル掘削機(TBM)で、やわらかいものでも堅い岩でも掘れるものです。

ドーバーで使う機械はシールドとTBMの両方の機能を有しており、このように欧米で開発され日本でブラッシュアップされ、生みの親のところに里帰りをしたのです。

このプロジェクトが始まる前後からヨーロッパ統一がいわれておりましたが、フェリーや飛行機を使っていたのが、鉄道、道路で大陸とイギリスとつながるようになります。

トンネルは3本通ります。主トンネルは往復2本、内径7.6メートルでシャトルカー、ユーロスターが走る。車は直接は走れない。列車に乗せて運ぶ。日本のフェリーでは車から運転者は降りることになっていますが、十数分なので乗ったままでもよいし、休憩室に行ってもよい。自由になっております。主トンネルの間にサーピストンネル(内径4.8メートル)、この3本を結ぶ連絡通路(内径3.3メートル)と両サイドの主トンネルを結んだ風圧軽減ダクト(内径2メートル)があります。

ユーロトンネルの売店で売っていたものですが、イギリスとフランスは仲よさそうにしているが、百年戦争もあったごとく、長年の敵同士ですから、背中に匕首を突きつけられたり、ミッテランとサッチャーが睨み合って、3本掘るつもりが6本になるだろうといったことを書いた風刺画もあったほどです。

私どもが基地にしていたのがフランスのカレーですが、このあたりはしょっちゅうイギリスに占領されたところで、両民族が入り交じっている地域です。

現在でも欧米と日本の間には、日本製品の輸出を押さえようという動きがある中で、1987年にドーバートンネルの中心であるフランス側のトンネルに、掘削機として日本製のものが採用されたのです。フランス側の海側鉄道トンネルT2、T3用の2台は川崎重工業製、それにつながるフランス側の陸側鉄道トンネルT5と陸側サービストンネルT4用の2台は三菱重工製でした。海側サービストンネルT1はアメリカのロビンス社製が使われましたが、一部は日本の技術が採用されたのです。

イギリス側ではいずれもイギリス製のものが使われましたが、イギリス側は海側も陸側もブルーチョーク層（水も通しにくく、割れ目も少ない）で、フランス側は陸部分はやわらかいホワイトチョークとグレーチョークが主体で、かなりの水圧で水が湧きだす。またその先もイギリス側の地層のように安定していない。したがってフランス側では高い水圧に対抗し、変化の多い地盤を掘れる日本製が採用されたのです。

日本で密閉式シールド工法の技術があるといっても、せいぜい1平方センチメートル当り4キログラムの水圧に耐えた経験があるだけです。鉄板で作るシールドや隔壁部分はしっかり計算をして厚い板を使ったり、補強をすればすむのですが、最も困るのは水圧のかかった状態で、どうやって削った岩や土を取り出すかということでした。そして1986年泊まっていたホテルでマルチコントロール・スクリーコンベアのアイデアを思いついたのです。

前後に2本のスクリーコンベアがあり、別々に回転する。後の方のスクリーは前後に位置をずらせるようになっており、それによってスクリーの羽のない部分が0~2メートルの範囲で変えられる。水圧がかからず地盤が乾いて堅いときは、削ったチョークを前の第1スクリーコンベアの後にある蓋（第1ゲート）を全開し、その下にあるベルトコンベアに移す。水圧がかかって地盤がやわらかいときは、第1ゲートを完全に閉めて、後方のスクリーコンベアのスクリーを後に移動し、羽のない部分を長くする。運ばれてきたズリはこの部分で詰まって、チョークのせん（プラグ）ができる。前のスクリーコンベアを後のスクリーコンベアより少し遅目に回転させると、プラグ、後

のスクリーコンベアに入っているチョーク、ベルトコンベアにズリを落とす第2ゲートの全てが抵抗として働き、水混じりのズリでも、切羽の水圧に十分対抗できる。これがマルチコントロール・スクリーコンベアです。

困ったのは掘削機の製作期間で、私たちはTMLと日本の技術陣と打ち合せ、設計、製作、輸送をして、フランスで組立完了までの製作期間を17か月と主張。TML社は13か月だ、4か月も遅れると銀行からお金が借りられないと主張、神戸と連絡をとって全面的なバックアップを約束してもらったものの、心の中では期日が守られないとペナルティを払うことになるかもしれないという危惧はもっていました。

今回のドーバートンネルを掘る掘削機は4つの難しい技術上の問題があります。

1. 日本のシールド工事の経験では、長くても4キロメートルの距離しか掘っていないのに、海底の地下を16キロメートルも掘らなければならないこと。海底なので水には塩分が含まれている。掘ってしまったトンネルの内径はセグメントの壁ができて、シールドより小さくなっているためにバックすることも、新しい機械を後方から入れることもできない。したがって、どうしても故障しにくい機械、万一故障してもすぐに修理できる機械でなければならない。
2. 10気圧以上の高い水圧に耐えなければならないこと。
3. 38キロメートルものトンネルをイギリス側から22キロメートル、フランス側から16キロメートル、向かい合って2台の機械で掘って、2年半で掘り終えなければならないこと。それには毎月500メートル以上掘れなければならない。今までの経験では毎月150~200メートルが精一杯でした。
4. 堅い地盤とやわらかい地盤の両方を掘る機械でなければならない。

テストと設計が進む中で、モーター、ベアリング、油圧シリンダー、バルブなど、さまざまな部分について必要な性能が決まってきた。メーカーに注文をする。この掘削機はヨーロッパで使うので、電気関係の部品はアフターサービスも考えて、できるだけヨーロッパの国から買うことにしました。

私たちトンネル機械の設計部門は、国内の仕事が中心で、外国人相手の仕事はあまり経験がなかったのですが、他の部門から応援に来てくれた技術者や調達部門の人たちは、外国との交渉や資材を買うことに慣れていて、大いに力になってくれました。

1987年当時のフランスの景気は非常に悪く、失業率も高かったのです。ドーバートンネルの掘削機の製造という大きな仕事のほとんどをアメリカや日本でするといっているので、フランス市民や議会は大きな不満をもっていました。そこで施主であるTMLはできるだけフランス国内で作られ、ヨーロッパ製の部品を使ってほしいと言ってきた。そこで2号機のカッターヘッドと胴体の後半部はこちらの設計にしたがって、FCB社で製作することになりました。日本から送られた部品、ヨーロッパ各地で買い集めた部品をダンケルクの工場を組み立て始めたのは6月の中旬からで、大型部品が次々にカレー港に荷揚げされると、地元の新新聞は大きく報道してくれました。

試運転と完成式を終えて、1,200トンもある掘削機は、また分解されてトンネルを掘り始めるサンガッテまで運ばれました。分解されても大きいものは直径8.8メートル、重さ400トンもある。約40キロメートルの道程を、車輪が60個もついた特殊なトレーラーで、パトカーと白バイが先導するという大がかりな運搬です。

幅が9メートルもあるので、普通の自動車の倍の道幅が必要ですが、曲がり角では邪魔なガードレールを取り外したり、道路を横切る電線を地下に埋めたり、道路標識を移動したりしました。持ち上げたり、地下に埋めるだけではどうにもならない電線は、停電を予告して電線を切って通過しました。日本では苦情が出るところですが、北フランスの人はのんびりしており、近くの人はもちろん遠くから車で見物に来ている人もあり、お祭りの山車を見るように興奮しておりました。ちょうどクリスマスの前で、ある町では道路の上にクリスマスの飾りつけをする習わしを、気持ちよく理解してくれ、その町ではこの年のクリスマスの飾りつけはなし、夢のトンネルを掘る機械が通るといっているので理解し

てくれたのだと思います。

12月6日、正式にT2トンネルの発進式が行なわれ、立穴の上にステージが作られ、ECに加盟するヨーロッパ各国の民族衣装を着た人たちが並び、正面にはECの旗と並んで日の丸も掲げられていました。この掘削機はヨーロッパ統合にちなんで、「ヨーロッパ号」と名付けられ、ユーロトンネル社幹部の孫でヨーロッパ君という小学生がシャンパンのピンを割って、機械の門出を祝ったのです。

フランス人の若い作業員にTBMの操作を教えつつ、未完成の付属設備の調整をしながら、1日1リング(1.6メートル)、2リングと掘り進み、最初は1日8時間しか掘りませんでした。

最初の1か月ぐらいは、エレクターを動かすラジコンの箱をくびからかけた運転者、地上か



ら運ばれてきたセグメントを順序よくエレクターに渡す装置を動かす人、直径2.5センチメートルのボルトを必要なところに運ぶ人、セグメントを組む場所のジャッキを引っ込めるように、運転席に無線で連絡する人、ボルトを締める人3人、見物人、こちらの指導員と、狭いところに10人あまりもいるので、最初の1か月ぐらいは2時間以上かかって、ようやく1リングが組み上がるという調子でした。

これではトンネル完成までに5、6年かかりそうだと暗澹たる思いでしたが、2か月後には、1リング組み立てるのに1時間、半年後には20分もかからないようになっていました。

1988年12月20日頃から、掘削はあらかじめセントミルクで地盤を改良しておいた部分をこえ、出てくる水量が多くなり、水圧も3気圧に

上がり、推進力やカッターの回転速度を上げても、掘削速度は1分間に3～6センチメートルから1～2センチメートルに落ちてしまった。地層はグレーチョーク帯に入り、チョークを地下水に溶いたようなものと、チョークの塊がまるで下痢のようにスクリーコンベアの出口から飛び出して、あたり一面泥の水びたしになってしまった。水を止めようと後のスクリーコンベアを極端にゆっくり回し、出口のゲートも少し開けただけで運転すると、たしかに水は止まるが、ズリはこねられてかちかちに固まって出てくる。まるで下痢と便秘が交互にやってくる状態でした。

こうして1リング掘るのに2時間も3時間もかかるようになってしまった。1989年の1月半ばに、1週間かけていろいろ改良を試み、ズリの流れをよくするようにカッターディスクの中央部のカッターを一部取り外したり、塵取りの役目をするシュートを改造したり、これに水をかける装置をつけたり、ベルトコンベアの傾きをゆるくしてズリが滑りにくいようにして、泥水を吸い出す性能のよいポンプも増やし、ズリを運びだすトロッコも増やした。こうしてだんだん1日5リングぐらい掘れる日も多くなってきました。

しかしスクリーコンベアから出たズリがヘドロ状になったり、大きな傾きで設置されたベルトコンベアの上でスリップし、うまく運べないという問題は解決されなかった。黄色い雨ガッパを着た5～6人の作業員が、ベルトコンベアの両側にスコップを持って並び、滑り落ちそうな大きなチョークの塊をかきあげてやることにしたのです。作業員からは「ジャポネのハイテク機械を買ったのに、まるで舟漕ぎだ」とからかわれる始末です。ベルトに溝を作って滑りにくくしたり、ベルトのスピードを上げたり、いろいろの工夫を重ね、少しずつよくなってきた。中でも役に立ったのは土が上にはね上げられても、上から土の塊が落ちてくれば、そこで止ってしまう装置でした。こうして3月20日までに300メートル掘るといふ、最初の目標を何とか達成することができました。

3月下旬からは、3チーム交替で24時間作業の体制ができ、予定より43日も早い5月17日に1,000メートル掘ることができました。これによってスタートが3か月遅れたペナルティも払

わなくてもよいことになりました。

4月下旬から5月にかけては、1日15メートルから20メートル掘れるようになっていましたが、5月末にカッターディスクの中央付近の鉄板に小さい割れ目を発見、鉄板の溶接による継目にも肉眼では見えない割れ目を発見、修理のため神戸から3人の溶接のベテランがフランスに派遣されてきました。

なぜこういう割れ目ができるのか、原因を調査しないと修理もできない。はじめは私たちとTMLはお互いに責任をなすりつけあっていたが、いついまでも機械を止めておくことはできない。方針が決まったあとはそれぞれの時間の分担を決めて、一日も早く修理が終わるように協力して作業が始まりました。

修理工事も1日3交替、24時間で当る計画を立て、神戸からもT3のメンバーからも一時的に応援を出しました。しかし溶接作業、組立作業にはフランス人を集めなければならない。ところが6月中旬からはフランスはバカンスの季節で、作業員10人の要望に5人しか出せないという。その会社の社長が川崎重工の責任者が直接職人たちに頼んで、相手がわかってくれればいいのだがとっておられると聞いて、通訳を連れて必死の説得につとめ、あと4人を出してくれまして、何とか6月末には修理を終えたのです。

この年は、1989年の末までの6か月間に3,250メートルを掘削、月平均542メートルと目標をこえるスピードで掘り進むことができました。

その後フランス人も運転がうまくなり、地層も掘りやすいブルーチョークがほとんどになったので、予定より9か月も早く目標地点に到達しました。イギリス側の機械で掘る予定であった、国境をこえる部分4キロメートルも、向こうの作業が遅れていたもので、日本・フランスチームが掘ることになり、合計20キロメートルを900日間で掘り終えたのです。

1991年5月22日午前11時30分、フランスとイギリスの間にある幅38キロメートルのドーバー海峡のほぼ中央部、海面下100メートルの地中で、大きな喜びの声が響き渡りました。ヨーロッパ大陸とイギリスを鉄道で結ぶための、2本のトンネルのうち1本が開通したのです。国境をこえたみんなの努力が実った瞬間でありました。

イギリス側で待ち受けていたイギリス人、フランス人、そして数人の日本人を含めた100名の目の前で、フランス国旗の色からとった赤、白、青のカーテンが開き、大きな「鉄のもぐら」ともいえるトンネル掘削機の先にある、巨大な円形の Cutter ディスクが元気よく顔をのぞかせたのでした。11時45分、回転を止めたCutterの間から、次々に飛び出してくる人、人、人。それを迎えてイギリス側から駆け寄る作業員や技師たち。男同士で抱き合い、ヘルメットを交換し、中には作業服を交換する人もいました。

「Cutterの穴からイギリスの風を感じたときは、3年間の苦労をいっぺんに忘れてしまった。20キロメートルを掘りぬいてくれた掘削機に胸が熱くなった」と話してくれました。

このトンネルを作るか、やめるかについては、何回も議論されました。やっと1973年になって、当時のイギリスのヒース首相、フランスのポンピドー大統領の間で建設に合意、協定が調印されたのです。工事も始められ、フランス側でもサンガッテでアメリカのロビンズ社の掘削機が組み立てられるところまでいったのですが、運悪く第二次石油ショックの経済不況で中止されてしまった。これが26回目の計画でした。

その後、1986年の2月にミッテラン・フランス大統領と、サッチャー英首相の間で、両国で事業をすすめるための条約が調印された。この計画の練り直しの際に、いくつかのアイデアが検討され、イギリスとフランスの人たちが合同して作った「ユーロトンネルグループ」の案が採用されることになったのでした。これが今回の計画で実に27回目でした。

ドーバートンネルでイギリスとヨーロッパ大陸が結ばれましたが、デンマークとスウェーデンを結ぶトンネル、スペインとモロッコを結ぶジブラルタル海峡トンネルの計画があります。ジブラルタル海峡トンネルは2国間を結ぶだけでなく、ユーラシアとアフリカの2大陸を結ぶという大きな意味があります。

アジアではジャワ島とスマトラ島を結ぶスンダ海峡トンネル、北海道とサハリン島を結ぶ宗谷海峡トンネル、シベリアとサハリンを結ぶ間宮海峡トンネル、日本と韓国を結ぶトンネルなどが考えられます。ソビエト連邦とアメリカが対立していた時代には想像もできなかった、ロ

シアとアメリカを結ぶベーリング海峡トンネル計画が実現すれば、ユーラシアとアメリカの両大陸を結ぶことになります。

このような海峡トンネルが実現すれば、世界の大陸はオーストラリアを除いて、全て陸路で結ばれることになる。そうなれば船による輸送と違って、旅客や貨物の高速輸送が可能になります。ガス、石油、電気などのエネルギーも安定して、環境に悪影響を与えることなく運ぶことができるようになります。

このドーバートンネルの仕事に携わっているときには、いろいろ辛いこともあってやっと終わったという思いが強かったのですが、今は苦しかったこともなつかしい思い出となり、たくさんの人たちと一緒に仕事ができたと感謝しています。

【講師略歴】

元 川崎重工業(株)産機プラント事業部 技師長。

1937年(昭和12年)兵庫県尼崎市に生まれる。

少年時代から憧れていた造船技術者を志し、大阪大学工学部造船学科に進学、61年(昭和36年)川崎重工業株式会社に入社するが、セメント機械設計部に配属され、翌年から1年間、神戸大学機械工学科の聴講生となる。

63年(昭和38年)産業機械開発課で、シールド掘削機の開発とトラブル処理に奔走し、土木機械(鉄のモグラ)屋の道を歩みだす。

85年(昭和60年)土木プラント部(現/土木機械部)部長、88年(昭和63年)8月よりドーバープロジェクト・マネージャーを兼務し、世紀の大事業に力を注いだ。

2女の父。

【著書】

科学・技術の最前線8

「ドーバー海峡を鉄道が走る…大陸を結ぶ海底トンネル」

発行者:山浦真一 発行所:あすなろ書房

春のライラ班・部屋割り表

	1 班	2 班	3 班	4 班
部屋名	メイフラワー号4	メイフラワー号5	メイフラワー号6	インディバー号4
受講生氏名 (男性)	田中 大 介	隅 田 健 夫	宮 川 翼	Mark Bradt
	☆広畑 健太郎5/4夕迄	森 下 哲 志	高 橋 大 介	Eklou Damien
	Kouassi Koffi Eli	Max Lam	Kenny Kwok	Andy
	(☆沢田 英士)5/3のみ	James G.Draper	Mawer Bradley	☆佐々木 耕
		鈴木 寛 史		
部屋名	メイフラワー号1	メイフラワー号2	メイフラワー号3	インディバー号1
受講生氏名 (女性)	大 崎 友 美	Tellei Sim	吉 田 千 恵	西 村 真 弓
	堀 志 帆	于 錦 華	☆吉川 美佐子	Jade Willshaw
	徐 莉 莉	Samantha Anderson	☆松 井 淳 子	Sarah Rose
	☆原 陽 子	☆李 落 落	☆閻 妍	☆和志武 玲子
	☆森 麻矢子		王 文	新 田 恭 子
人 数	9	9	9	9
チームライラ	山 本 浩 (メイフラワー号7)		森 岡 豊 (メイフラワー号7)	
	市 橋 興 宜 (メイフラワー号7)			
ロータリー パパ	オーディン号7			
	大 井 清	飛 田 昭 男	小 谷 敬 二	渡 邊 真 4日Amまで 北山陽一 4日Pmから

	5 班	6 班	7 班	8 班
部屋名	インディバー号5	インディバー号6	ビクトリア号5	ビクトリア号6
受講生氏名 (男性)	Mathew Ranju	Marvin Magbalot	岡 田 浩 助	Richard Galido
	柿 元 光	Jonathan Heugens	Andre Mahindra	中 嶋 晃 介
	☆北 井 康 久	Diwa Gilbert Asuncion	★片 山 佑 一 5/4夕迄	浜 崎 祐 輔
	5/4夕食まで	渡 邊 裕 輔		☆初 田 健 治
			本 多 高 男	
部屋名	インディバー号2	インディバー号3	ビクトリア号2	ビクトリア号3
受講生氏名 (女性)	西 山 な つ	Emma Ookerman	谷 村 菜 美 香	李 炅 珍
	野 口 麻 衣	並 河 有 紀	Dan Davy	赤 田 珠 紀
	Major Emese	中 村 麻 衣 子	Gaitan Mary Ann	☆松 井 夕 佳
	Ronabelle Jeha Villanueva	☆中 川 紀 美 代	☆橋 本 綾 子	
		★勇 香 織 5/4夕迄	☆波 多 俊 恵	
人 数	7	9	8	8
チームライラ	水 谷 光 英 (メイフラワー号7)		菅 原 小 理 恵 (インディバー号7)	
	市 橋 興 宜 (メイフラワー号7)			
ロータリー パパ	ビクトリア号7			
	金 ヶ 江 裕 之	八 橋 志 夫	西 山 俊 明 4日夕食まで 東 秀 夫 4日夕食から	庄 瀬 寛 4日夕食まで 金 子 武 夫 4日夕食から

凡例：☆ RAC ★ ROTEX

PHOTO REPORT

ようこそRYLAへ!



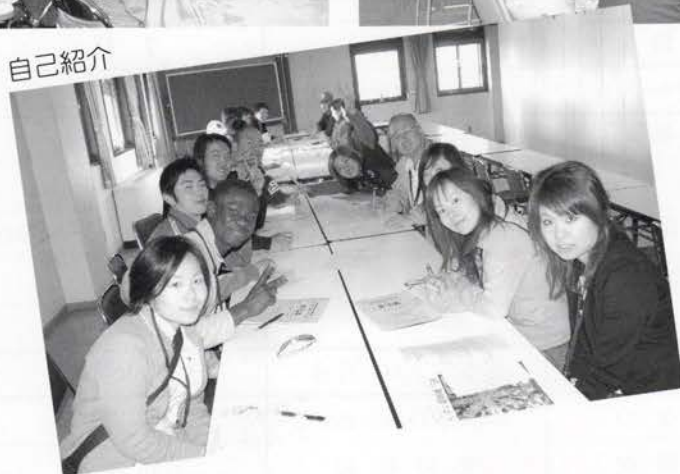
★ロータリーパパ紹介



グループリーダー等、担当者の選出



自己紹介



翌日のキャンプファイア出し物の検討



『いよいよ楽しいカレー作り』

★サア みんなで食材を取りに！



★準備！ 準備！ 準備！
—おなかになってます—



★朝、7時のラジオ体操は
きついな？
今日もよいしょ！



サア、お待ちかねの『カッター体験』です。

★グループごとに1枚、パチリ！



★オールを上げてアー ユー レディー？



★レッツ、ゴー！

★しっかり漕いで！
きみきみ オールがそろってないよ！



★日本赤十字社大阪府支部の指導による救急講習会



『砂浜インタレストタイム』

★宝物探し

広い範囲のスクエアの砂の中にオハジキがあります。
何個さがしだせますか？



★ビーチフラッグ

スタート地点の砂浜で後ろ向きにうつぶせに寝ています。
ヨーイドンで40メートル先の4本の旗を8人で取りあいです。
勝者は誰か？ 激突ゲームです。ロータリーパパも頑張りました。



★パン食い競争

ただのパン食い競争ではありません。パンは高い位置に在ります。普通の背丈では届きません。チームでパンの下まで行き、砂を掘り、山を作り、その上に乗りパンを口でとり（砂が崩れてなかなかとどきません、アチャー！）パンはその場で食べてしまいます。その間に他のものは、掘った穴をうめます。そして、ゴールに！ パンを食べる人には過酷？ な快感？



★砂ぞり

縄の先にくられたタイヤを引っ張って対岸の人に渡すという、リレーゲームです。砂がやわらかいので、思ったより重たく、苦戦しているようです。



最終日のバーベキューパーティー・キャンプファイアです。

★食材の品定めをして、サア準備です。 ★ただひたすら舌鼓です。



★キャンプファイア、点火式



★レッツ、ゲーム



★みんなでパチリ



卓話『ロータリー創始者の青春』

吹田江坂ロータリークラブ

北山陽一

(2001~2002年度 会長)

I. ポール・ハリスとは、

1868年4月19日生まれ、弁護士、1905年36歳でRC創設、1912年43歳から全米RC連合会の終身会長。

このような人生を歩んだロータリーの創始者ポール・ハリスは、裕福な家庭に生まれ、エリートコースをひた走った、私たちとは全く別世界の人物だと思いませんか？ しかし、ハリスは、父親が破産して祖父母に育てられ、大学では退学処分、23歳のときアイオワ大学で法律の学位を取得して卒業したが、実際に弁護士を開業したのは27歳の時。結婚したのは42歳。

今日は、ライラで若い皆さんの為にお話するので、ハリスは、どんな青春時代を過ごしたのかについて、お話ししたい。

II. ハリスの青春 「THE FIRST ROTARIAN」より

1. 1868年にシカゴから北に100kmほどのラシーンの町で生まれた。
2. 3歳の時、父が事業に失敗し、一家離散し、祖父母の下で育てられる。
3. 子供時代のポールは、いたずら好きで、ありとあらゆるいたずらをしてかした。あまりにもしょっちゅうだったので、何か子供が悪さをすると腹を立てた村人は、まずポールを非難した。最初に入ったバーモント州のブラックリバー・アカデミーは、一年間で放校処分を受け、次に入学した陸軍士官学校のバーモント・アカデミーは、入学後わずか18ヶ月で放校になった。
4. しかし、祖父は忍耐強く、ポールに家庭教師をつけて、勉強させ、1887年19歳で名門プリンストン大学に入学した。祖父が亡くなってから、祖母と将来について、話し合い、祖父が職業を選ばずなら弁護士の道といつも願っていたことを知って、アイオワ大学法学部に入学することを決めた。アイオワ大学



法学部に入学し、23歳でアイオワ大学法学部を卒業した。

5. 弁護士を開業しているアイオワ大学の講師が、「どの卒業生もまずは小さな町に行つて5年くらい、そこで愉快に過ごして、それから弁護士を開業するのもいい考えだ」と話したのを聞いて、ハリスも5年間位かけてアメリカ各地や外国を見て回ろうと心に決めた。
6. 放浪生活(5年間の愚行)
その後、シカゴで弁護士を開業するまでの5年間は、5年間の愚行と呼ばれている。
 - (1) アイダホ州の未開の山で鱒釣りをしたり、熊を打ち倒したりして息抜き。
 - (2) サンフランシスコで新聞のフリーの記者になり、ここで後にプロ野球ナショナルリーグの会長になる人物と意気投合し、果樹園で労働者として働き、旅の資金を稼ぐと、シェラネバダ山中やヨセミテ渓谷を探検。
出発後まもなくマラリアにかかったり、道に迷って4~5日さまよったり、人家を探し当てないうちに食料がきれてしまったこともあった。
 - (3) 二人は、干しぶどう工場で次の資金を手に入れ、ロスアン

ゼルスに向かい、ビジネスカレッジに教師の職を得て、足かけ8ヶ月カリフォルニア州内を旅して過ごした。

- (4) コロラド州デンバーで、15番街劇場の専属劇団で役者をし、新聞の本雇いの記者となった。デンバーの北で、24歳でカウボーイになる。
 - (5) デンバーで再び新聞記者となり、フロリダ州行きの切符を格安で手に入れる機会に巡り会い、そこでホテルの夜警事務員となる。
そのホテルに、大理石商を営むクラークがやってきて、ハリスが以前大理石会社で働いた経験があることを知ると巡回セールスマンになることを勧められ、フロリダ州近隣の諸州を広く巡回した。
 - (6) 大統領の就任式を見るために、ワシントンに向かい、就任式が済むと、ケンタッキー州に戻り、巡回セールスマンの職を得て、ケンタッキー、テネシー、ジョージア、バージニア州の多くの都市を訪れた。
 - (7) フィラデルフィアに行き、イギリス行きの求人広告に目を通し、イギリス船籍の船の家畜係に応募した。
 - (8) アメリカのパルチモアで、干し草作りの仕事を見つけたが、これは思いの外、重労働で、さすがのハリスもへこたれ、農場の雑役に変わった。また、船の仕事を見つけるまで、トウモロコシ缶詰工場働いた。
 - (9) 前回のイギリスで当時の世界最大の都市ロンドンに行けなかったハリスは、イギリス行きの船に乗り込んだ。ロンドンでは、時間と旅費を節約するために、安い下宿屋で下宿をし、ロンドン見物をした。
 - (10) 1893年の終わりにハリスは、フィラデルフィアに戻り、博覧会が開催されていたシカゴに行った。シカゴにいた時にはハリスは無一文に近く、いどこを見かけても、無一文の自分を見せたくなく、その場を立ち去るような状況であった。
 - (11) フランスの強い影響でユニークな文化を持つニューオーリンズに行くために友人から15ドルを借りて、往復切符の帰りの半券をダフ屋から手に入れ、ニューオーリンズに着くと残りの切符をダフ屋に売るなどした。
ニューオーリンズでは、オレンジのつみ取りの仕事をしたが、その時のハリケーンに遭い、死ぬ思いをしている。
 - (12) フロリダに戻り、クラークの大理石商に再度勤め、パハマ諸島・ヨーロッパを担当することになり、各国を旅した。
 - (13) 放浪生活も3年半が終わった時、クラークから「僕と一緒にここに残るなら、きつともっと金儲けができるよ。」と言われたのに対して、ハリスは「僕は金儲けのためにシカゴに行くというのではなく、ほんとうの人生を生きるためにシカゴに行くのだ。」と答え、1896年の初めにニューヨークからシカゴに戻る。
7. 私は、ハリスと同じ弁護士を職業としています。RCに入会してから16年になり、吹田江坂RCの会長もしばらく前にして、RCに入って沢山の友達ができたことには感謝しています。しかし、弁護士の仕事を始める前に、ポール・ハリスの青春時代を知っていたらと思います。まだ私の人生は長いとはいえ、5年間の愚行をするには遅すぎる気がします。皆さんには、まだまだ時間があります。回り道が決して無駄でないことを今日の話しで少しでも気付いていただけたら幸いです。



1. あなたはRYLAに参加する前 どんな気持ちでしたか。

- 面白そうで、いろんな事をたくさん体験できると思った。
- 香港マカオのローターアクトがうまくとけ込めるか心配でした。
- 初めての人たちと仲良くできるかどうかが一番不安でした。
- 楽しみたいという期待と、実際楽しめるかどうか不安でした。
- 初めての人たちとの出会いと共同生活が楽しみでした。
- 昨年のライラに参加してとても楽しかったので、春のライラとても楽しみにしていました。
- 初参加のため全日程を無事終了できるかどうか不安と楽しもうという期待でいっぱいでした。
- ライラは二度目の参加ですが、プログラムの内容や班のメンバーがどうか期待と不安でした。
- 18歳から30歳の人が集まるので、社会のいろんなことを聞けると思い楽しみでした。
- キャンプ生活から離れて7ヶ月が経っていたので今までの様に生活できるか不安でした。
- ワクワク、ドキドキしていました。初参加なので、どんなことが待っているか楽しみだった。自分にとって素晴らしい3日間になると思っていました。
- どんな人と知り合いになれるか楽しみだった。ただ、同じクラブのメンバーとは同じ班になれないと聞き少し不安な気持ちでした。
- グループ活動や友達に慣れるか心配でした。
- ライラのことにはよくわからなかったし、日本語も上手でないので心配だった。でも、新しい友達が大好きだから来るのが楽しみだった。
- どのようなことをするか想像もつかず不安でしたが、何事にも挑戦しようと参加しました。
- 海洋プログラムが出来ると知っていたので楽しみでした。
- 日本人ばかりと思っていましたが、外国人が多いのに驚きました。
- ライラに参加した友人に勧められて、参加し

たくなりました。しかし一人の参加は少し不安な気持ちでした。

- 様々な人たちとの交流を深め、自分の経験と人間としての幅を広げようと思った。
- 予想より外国人の方が多く不安が大きかった。

2. プログラムの中で特に印象に残った内容を3つあげてください。

もっとも多かった上位5つは、

- ①カッター……………63%
- ②インタレストタイム……………49%
- ③キャンプファイア……………47%
- ④カレー作り……………31%
- ⑤グルーブタイム、BBQ……………19%

その理由は、

①について

- 初めての体験であり、みんながひとつになって頑張った。その結果達成感を味わえた。
- みんなで力を合わせると、競争でトップを取れたことが嬉しかった。
- 仲間と協力して一つのボートを進めていることに喜びと一体感を感じた。
- 言葉が通じなかったが、協調性を養う良い機会であった。
- 個人の力ではなくグループの力を合わせて、常に整合性を保たなければならないことを体験した。
- 最初は単純に面白いと思っていたが、やり始めると単純でないことと、何をしてもチームワークが大切であり、その気持ちを持った方が完璧だと感じた。

②について

- 楽しかった。行動は、全体のチームワークと協力が結果に現れた。
- みんなが班のためにひとつになっていると実感できた。外国人キャンパーと日本人キャンパーが近づけたように思います。
- 班対抗だとチーム意識が芽生え、それまであま

りまとまっていなないメンバーの気持ちが一
つになって嬉しかった。

- 1位になるという明確な目標に向かってチ
ームが一つになった。また、野外のこんな綺麗な
海を見ながらスポーツができたから。

③について

- みんなで楽しめた。みんな色々なゲームをや
って、本当にいい感じでした。
- 国籍も年齢も関係なく全員で一つのことを楽
しめたから。
- 国籍や文化の違う人たちをお互い知ることが
でき、そして友情が生まれた。
- チームとして選んだゲームを皆さんに楽しん
でもらった。2日目の今日みんなと慣れてきて
友達になり、明日別れだねということを考えると、
素晴らしい時間だと感じた。

④について

- 会ってまだ数時間しか経っていないのに、みん
なで協力し合い楽しく作れたから。
- まだそんなに仲良くなかったのに、おいしいカ
レーが出来たから。

⑤について

- みんなで協力して準備をして作ることで、グル
ープの方とも、他のグループの方やロータリー
の方とお話してコミュニケーションが取れる
良い時間でした。
- 班のメンバーと親しくなれる機会を持って、将来
の夢とか語り合えて親近感を持てた。
- 文化の違う人々が集まっての話し合いは、興味
深いことが多く、新しい発見や思想の違いを知
ることが出来てよかった。
- お互いの考えを知り、ポスター描きなどでメン
バーの才能を見つけることが出来てよかった。

その他

- 宇賀先生の基調講演は印象深い内容でした。こ
れからもこのような講演を聴きたいです。
- 救急講習会で習ったことで、今後誰かを助ける
ことが出来ると思います。

3. 初めて出会った人たちとグループ で活動をしてきました。どのよう なことを感じましたか。

- 最初はお互い遠慮をしていたが、時間とともに
打ち分け合えて、最後のグループディスカッ
ションが成功して良かった。
- 初めて会った人とは思えないほど、すぐにみん
なと溶け込めたことに驚きました。
- 新鮮感があつてとても楽しかった。また、チ
ームメンバーはいろんな国からきた留学生であ
るため、話題が豊富でとても楽しい時間をすご
せました。
- 集団活動の重要性が分かった。時間厳守、譲り
合いなどのことも分かった。
- 最初どう話しかけたら良いのか戸惑っていま
したが、みんなが積極的に話しかけてくれてと
てもうれしかった。みんな良い人ばかりでした。
- 様々な国の人たちが協力し合って、そしてプロ
グラムを経て仲良くなれました。共通語の英語
をもう少し勉強しなければ、と思いました。
- コミュニケーションは自分から積極的にとっ
ていくことが大切と感じた。
- 目的意識を持っている人たちが集まれば、良い
チームワークで何事も乗り越えられる事。
- 文化や言葉そして年齢の違いがある中で一つ
にまとまる難しさと、時間とともにお互いを理
解できることの新たな経験をした。
- はじめは不安であったが、話をしていくうちに
国籍や年齢は全然関係なく、自然に対等に接す
ることが出来た。今になっての発見であり驚き
であった。
- 日本人以外の人たちが日本の文化に興味を持
ち、言葉が通じなくても一生懸命伝えようとす
ることを分かってくれて、お互いに理解するこ
とが出来ました。
- 英語での会話がメインになって分からないと
ころは通訳しあつて二日間過ごしました。言葉
が通じなくても、本当に仲良くなれることが分
かった。
- 仲良くなるのに、国籍、年齢、性別等関係ないと

感じた。日を追うごとに、役割分担が自然と出来ていると感じた。

- 最初は馴染めるかどうかは不安でしたが、夕食を一緒に作ったりしているうちに、仲良くなった。
- 最初外国人がいっぱいいるのでびっくりした。日本人同士また外国人同士が固まらず、みんな一緒に楽しめた。言葉が通じなくても協力して楽しめることができ嬉しかった。
- オープンで親しみやすい人たちが多く、みんなと仲良くなれた。この感覚を大事にして、出会っていく人たちと、輪をつないでいきたいです。
- 日本人だけでなく、外国人の人たちとグループ活動してその国の文化、言語、また日本の常識が異なりとても新鮮に感じました。

4. テーマ「明日にチャレンジ！ ひらこう未来を君たちの手で！」を どのように受け止めましたか。

- 他力本願ではいけない。自ら目標に向かって行動しなければいけないと思った。
- 自分たちが、将来何が出来るかもっと考え直して行動していく大切さが分かった。
- 国際的なことに関して、未来にどのような役割があるかを考えた。
- いろんなことに、まだまだチャレンジしていくことや未来は自分のものなんだと改めて感じ、新鮮な感じもした。
- 夢を持っていくということと、未来は僕たちの手で開いていかなければならないと思う。
- 今回真剣にみんなで将来について語り合った事が良かった。失礼だがみんな、意外と熱い思いを持っていることが分かった。
- 自分の将来を語ったり人の話を聞いたりして、より自分の将来を考えさせられた。
- 最初はすごいテーマだと感じたが、実務体験をしてテーマ以上の中身を体感した。
- すばらしい経験の場として受け止めました。明日にチャレンジ！前向きに様々なことにチャレンジします。

- まだ殻の中に閉じこもっているのでも、どんどんチャレンジしていきたいと思いました。ライラに参加すると、チャレンジしている人がいるので、とても刺激になりました。
- 自分の将来について、もっと計画的に目標を持って生活をしていかなければならないと感じた。
- 自分の将来と夢を実現するには、自分だけでなくほかの人たちと一緒にやればより良い結果が出ると感じた。
- いろんな国籍の人たちとの会話がチャレンジの2日間でした。班のメンバーと協力し合えたことで、新しい人間関係が築けたことが、自分の将来に大きく重要なものになったと思います。
- 模索し遠回りしても、目標設定を常にしていくこと。多くの人に出会い、吸収し、自分で自分を創っていくことと受け止めました。
- 外国の参加者と接したことで、未来・将来は、自分や自国にとらわれず、世界的なチャレンジをしなければいけないことに気付いた。
- 将来のために、いろんな人と出会い、その中で様々なことを感じ取り自分の力にしよう、と気付いた。
- 世界の明日は、わたしたち若い人の努力次第で創造するものである。わたしたちは、まず、自分自身のことを鍛え、丈夫な体と強い心で未来を担うべきである。

みんなで語り合おう

テーマ 「明日にチャレンジ！ ひらこう未来を君たちの手で！」

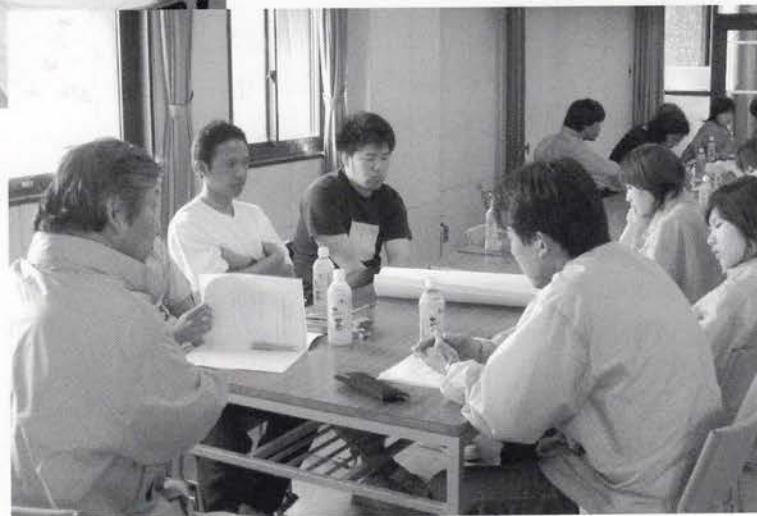
サブテーマ “ ”

バズセッションで行います。

1. 今回のライラの経験を生かしてテーマに沿ったディスカッションをグループ別をお願いします。グループにはロータリアンも参加します。

例 10年後、20年後に思うこと
夢はなに？その夢を実現するには！
将来自分たちに出来ると思うこと
将来私はこんなことをやってみたい！

2. グループ内で議長と書記を決めてください。約1時間でグループのディスカッション内容を要約して書記の方が記録してください。
3. 会場はフリーですので、各班で自由に決めてください。野外、研修室も使用可能です。
4. 終了時にグループ別の記録をご提出ください。報告書に記載します。記録は受付ロビーに提出ください。



各班別総括発表

第1班



昨日の討論会で作成した、マトリックスで討論内容を各人ごとに発表しました。グループによれば各人が自分の夢を自分で語る方式でしたが、持ち時間からまとめて一人の人に読んでもらうことにしました。各人の名前はAさん、Bさんにしました。7名の内、6名は(1)『なりたい自分』が明確で、1名の者が不明確でした。ただそれもまだまだ時間があるのでじっくりと、自分の夢を探すのもいいという意見も出ていました。(2)『足りないもの』に認識が鮮明な者が3名、不鮮明な者が3名とこのあたりから分かれてきました。(3)『やるべきこと』、になると6名ともぼんやりと見えているが鮮明ではなく模索しているのが現状でした。結論は出ませんでした。討論のなかで問題点が鮮明になりました。これからもこのような場所に多く参加させてもらい夢の実現のために頑張りたいと思います。

最後になりましたが『春のライラ』のホストクラブ、吹田江坂ロータリークラブの皆様、そしてライラ関係者の皆様、そしてロータリーパパに心より感謝いたします。

第2班

15年後は状況が変化しているので色々な国を知るためライラなどで友情を築いて友達をつくり情報交換をしたり助け合ったりできるいい機会でありました。

1. 温かい家庭を作る
2. 事業をもつ
3. 家族を作り日本か中国かアメリカの政府の一員として仕事がしたい
4. 日本で中国人に日本語を教えたい。余暇は写真を撮るのが好きだから楽しみたい
5. 貿易関係の勉強をしていて、貿易関係で世界に羽ばたける人になりたい
6. オペラ歌手
7. イタリアに行ってイタリア料理の修業をして店を出したい



第3班

私たち3班は10年後の私をテーマに考えました。

☆仕事を続けながら、社会奉仕活動をしている。

☆結婚して子どもを産み温かい家庭を持つ。

☆アメリカで仕事をし、勉強も続ける。中国にいる両親を呼びたい。

☆ドイツで勉強をし、結婚をし、将来は通訳の仕事をし、いつか国連のトップになりたい。

☆どんな小さなところでも良いから心をこめて歌を唄いたいです。

☆何らかの仕事をし、結婚し、様々なことを経験し本当にしたいことを見つける。

☆結婚をし仕事をしながら勉強をして平和に過ごしたい。

☆結婚をし仕事をし子供とスポーツ等をして遊び、チャレンジするために沢山の国に一人で旅をする。

☆好きなことを見つけて勉強して世界旅行をしたい。そしてフランス語も勉強したい。そしていずれ結婚したい。

まとめとして10年後は近いようで遠く遠いようで近くて計画している人もいわば曖昧な人もいるがこういう機会でも話し合えて良かったです。いろんな事にチャレンジして前向きに生きていきたいと思います。



第4班

私たち4班は「10年後の私」を考えました。

それぞれ10年後にどんな自分になっていたいか。そのために自分がすることを考えあつた。

10年後にはみんな結婚をしたいし、子どもも持っていたい。でも結婚しても働き続けていたい人もいれば、子どもができたらず育てに専念しようと悩んでいる人も。

日本人と結婚したい人、日本人の子を養子にしたい人もいる。



10年後の私

- 国際会社員
- 映画ディレクター 日本の大学で勉強している。日本人と結婚したい。
- 美術の先生 カナダで結婚しているだろう、日本人の子どもを養子に欲しい。
- コンピューター関係の会社を起こしたい。ソフト開発できればすぐに起業したい。できなくてもコンサルタント会社を共同で起こしたい。
- 世界を旅して様々な経験をしたい。自分の会社を起こして部下に仕事をさせて自由な時間を作りたい。
- 結婚して子どもいるかな? 子どもができたら仕事を続けるべきか悩むところ。パワフルなママになりたい。
- 北海道に移住したい。結婚は早いうちにしたいかな?
- 結婚して子どもがいる。結婚しても子どもができて今のペースで生活したい。仕事も続けたい。ボランティア活動とかもしたい。
- 幼稚園の先生をめざしている、近いうちに資格を取る。短時間でも良いから仕事を長く続けたい。

第5班

私達5班のサブテーマは「Step By Step 小さなことからコツコツと」です。

私達は将来社会のために何をしたいか、何ができるかについて考えました。漫然と大きな希



望を言うだけではなくて、その為に私達一人一人のレベルでできることを話し合いました。その小さな事を積み重ねることが、社会への貢献につながると思いました。

○みんなのやりたいこと、できること

- マーティ インドで日本語で日本のことを紹介していきたい。働きながら国際活動のボランティアをしていきたい。
- ジーヤ 自分の国フィリピンの政治、経済の問題を解決していきたい!
- マヨル エメッシュボランティアで環境問題の解決を目指す!
- 野口麻衣 歌で一人でも多くの人を喜ばせたい
- 西山なつ 肥満や糖尿病など生活習慣病に悩んでいる人達を助けたい!
- 北井康久 社会人ではあるが時間の許す限りボランティアをしていきたい!
- 柿元 光 日本にスポーツを普及して、子どもの健全教育をしたり運動不足の解消などを狙いたい!

第6班

私達6班のサブテーマは「NEW FRIENDS, NEW FUTURE」です。

みんなで3日間の感想を言い合ったところ、いろんな国のいろんな言葉をしゃべる人達と仲良くなって、ボートとかチーム対抗ゲーム、チーム対抗料理で協力できたことに感動した。一人一人が世界のいろんな所の人を知ることがホンマの意味で世界が小さくなる、少しでも将来平和につながるかも知れない。

「NEW FRIENDS, NEW FUTURE」

新しい友達と出会うこと=新しい未来を作り出すというサブテーマになりました。



▽3日間の感想

- 英語を勉強しようという意欲が湧いた。
- 初めて出会う色々な言葉を話す人々との協力が良かった。
- よりよい未来に行くためには協力が必要、ボートにたとえられる。
- みんな別々の良い部分がある。みんな別の人格をもっている。だからこそみんなが協力することがすごく有意義。
- 一回の偶然の出会いがずーっと続いていくことが素晴らしいと思う。
- 英語がしゃべれなくても伝えようと頑張ったら伝わる、挑戦することは大切、そして最善を尽くすことは大切。
- 色々な言葉を少しずつでも学びたいと思った。
- 一人ではできないことでも他の人の助けがあればできる、将来を築くには助け合いが必要。
- 目標をもって行動すること。自分で目標を作ることが大切。

第7班

「サブテーマ」夢

アンドレ：社長。

アン：大使、先生、国際関係。

なみか：音楽を続けたい、音楽の楽しさを伝えたい。

デヴィー：自分の会社、店を作りたい。

おっちゃん：10年後社長になっておく。

かんとく：母、祖母が保育士。小6で保育士になろうと決意し大学行かず将来について考えた。今年4月から1ヶ月試してみても夢がかなった。楽しい、しんどいけど辞めたいとは思わない。結婚しないから辞めることはないから、先々園長になるだろう。子ども本位の教育をしたい。遊ぶことから学ぶ。

あやちゃん：ニートを卒業すること。いろいろやってきたけど壁にぶつかってきた。

はた：ナース、ケアマネ。



- 夢はかなえたら終わりではなく、次の夢を自分に与えていくもの。
- 最初の夢はずっと持っていくべきもの。
- 子どもの頃はシンプルな夢だけど、大人になると現実的になる。
- 夢がかなったら、もっと高いレベルの夢を持つべき。

第8班

- 様々な人との交流を深め、自分自身を見直したり人間としての幅を広げることができた。

(初田)

- RYLAを初めて知って参加して、いろんな人種、性別、立場の人々と協力して何かをやり遂げることができて良かった。(赤田)
- ライラで色んな国の人達と交流できたのがよかった。貴重な体験をさせてもらい自分の視野を広げることができたと思います。(浜崎)
- 新しい人との出会いにときめきをもって参加して、色んな事を体験していい経験になったと思います。みんなとがんばってやる事ができてよかったとおもいます。(李)
- この春のライラを通して、いろいろな体験、まったく知らない人との交流ができて良かったです。これからもこの体験をいかしていきたいです。(中嶋)
- I learned a lot from this camp and I have met a lot of Japanese friends ARIGATOU GOZAIMASU! (リチャード)
- 初のライラに参加して色んな人と知り合うことができ、なかなかできない体験ができて良かったです。(松井)



春のライラに参加して

1班

カレー本当によかったです。この3日間自分の責任者のパパ、本当に有難うございました。スタッフの皆様もありがとう。中国人、コートジボアール人と日本人と一緒に話したり、一緒にするのが楽しかった。

2班

この3日間のプログラム、トンネルの話やカレーを作った。カッターの体験、ビーチで楽しかった、よかったです。キャンプファイアが一番楽しかった。これからも仲良く出来たらと思



います。ありがとうございます。パパもありがとう。RCの皆様もありがとう。みんなのために活動していただきありがとうございます。

3班

私もRCの皆様心よりありがとうございました。

1. 初めは来るときは不安であったが、2日目にはちがうグループと部屋に来て楽しかった。
2. トンネルの話、心に残った。自分の目でトンネルを見に行きたいと思います。又参加したいと思います。
3. 皆が仲良くしなかった時のカレーが、どの班のカレーもおいしく出来て良かったです。
4. キャンプファイアの出しもの、人生で初めて一分で決めてすごくスムーズで私自身最高だと思った。
5. カッター、救急の講習楽しく、一人の命を救えれば幸いと思います。
6. 宝さがし、最初だめだと思ったがパンクイ競争、最後は結果がよくびっくりした。くる



しかつたがよかつた。

7. キャンプファイアの「幸せなら手をたたこう」の歌は楽しく幸せな時間になっていました。
8. ロータリー創始者の青春の話を聞き、彼は弁護士になる前に色んな仕事、色んな国に行き、色んな体験をしたのを聞き、私も未来に向って色んなチャレンジをして行きたいと思います。
9. パパさんに全員よりのプレゼントがあります。みんなが書いた手紙です。

4班

私達はどこのグループと同じ様に色んな国の人が集まって自由な雰囲気集合時間に遅れたり、バーベキューの時も作るメンバーは限られていたり、ハプニングや問題がありましたが、ビーチでのインタレストタイムでは2位という素晴らしい成績をおさめることが出来た。やはり皆が一生命にやれば、気持ちが一つになれたなあと感じ、RCチームライラの皆様にお礼申し上げます。



この3日間で最も印象に残ったことは、このキャンプに参加させていただき、新鮮な気分になり、外国人に相談してもらい、世界の温かさを感じた。

おいしい料理を食べられて、色んな友達が出来て心より感謝しています。私とアンディはアジア人同士ですが、話が出来ず判らず、アフリカ人に通訳してもらおうと云う体験をさせてもらいライラしか出来ない体験だと思いました。

私は海が少し冷たいのが判りました。みなさんありがとう。

私は3日間が楽しく、みんな元気いっぱいグループタイムの時、マークが海にとび込んで、女の子も海に入ったりと自由に楽しめた。

私はローターアクトに入っていてロータリアンと親しく話せて良かった。国籍、文化の違いが難しい、コミュニケーション不足だったが、

最後は4班は良いグループになれた。

最後にパパ2人、渡邊、北山のパパありがとう。北山パパは、はだしでがんばってくれました。ありがとう。

5班

ここに来る時は不安で、外国の方と一緒に部屋で、レッスンなどしてくれてコミュニケーションがとれ楽しかった。最初はドキドキしていたんですが楽しかった。ポートを漕ぐと死ぬかと思った。友達も出来て楽しかった。



6班

私はフィリピンから来ました。八橋パパあり



がとう。英語、日本語も出来ないメンバーが3日間で気も合い楽しめました。

7班

パパが3日間で4人もいて、名前も覚えられず、毎日かわって大変でした。メンバーも初め10人が6人にへりました。インドネシアのドミノカードで1日目からドンチャンさわぎ、楽しく夜あそびしました。

性別、職業、年代、国籍を越えて友情が出来てとても楽しかった。パパ、RCの皆様ありがとうございました。来る前は不安で一ぱいだったけれど、1時間もしない内に仲良くなれて、言葉は通じなくても、コミュニケーションする手段は色々あって、仲良くなれたのが初めての経験で、皆様とても温かく3日間を楽しく過ごせました。RCのメンバーにお礼申し上げます。



8班

ライラを初めて知り、参加して色々な性別、年齢、立場の人々と交流を深め、自分自身を見直したりして、人間の中を広げることが出来た。貴重な体験をさせてもらいました。

全く知らない人と色々な体験交流が出来てよかった。これを生かしていきたい。

団体で生活するのが苦手で、人の前で何か意見を云うのが苦手であったが、3日間を通じて皆で一つのことをすることで、人に自分の思っていることを相談して聞いてもらい、夜通しつき合ってもらえて、すごく良い経験でした。又参加したいと思います。



R.I.第3450地区 ローターアクト

香港・マカオ

(マックスラム、ケニークー、アンリー)

参加する前は心細かったです。日本語がしゃべれず、色々な国から来て、こわかったです。3日間の体験をして言葉は判らなかつたが最後は気持ちが通じ合えて、色々な人と話し合えた。

本当に皆いい人ばかりですてきだった。この思いを胸の底にきざみたいと思います。

このライラの前にマカオのライラに参加して日本人の礼儀正しいことにびっくりしました。ありがとう。

マックスラムは3450地区の副代表を勤めています。マカオの皆様と香港との交流の交換として来ました。

本当はあと2名もモンゴルから来る予定でしたが、来られていたらもっと国際的になったと思います。



閉 講 式

式 次 第

会 場：研修室 太平洋
司 会 渡 邊 眞

開 会 点 鐘	吹田江坂ロータリークラブ 会長	栢 本 淑 子
挨拶と修了証書授与	R.I. 第 2660 地区 ガバナーエレクト	岩 田 宙 造
講 評	R.I. 第 2660 地区 青少年活動委員会 委員長	泉 博 朗
RYLA旗の引継ぎ	大阪そねざきロータリークラブ 会長	岡 本 孝 子
閉 会 の 辞	吹田江坂ロータリークラブ RYLA 実行委員長	田 中 襄 吉
ロータリーソング	ソングリーダー	延 秀 恵
閉 会 点 鐘	吹田江坂ロータリークラブ 会長	栢 本 淑 子

ロータリーソング

「手に手つないで」

手に手つないで つくる友の輪
輪に輪つないで つくる友垣
手に手 輪に輪 ひろがれ まわれ 一つ心に
おゝロータリアン おゝロータリアン

手に手つないで つくる友の輪
輪に輪つないで つくる友垣
手に手 輪に輪 ひろがれ まわれ 世界と共に
おゝロータリアン おゝロータリアン

挨拶と終了証書授与



国際ロータリー第2660地区
ガバナーエレクト 岩田 宙造

みなさんこんにちは。五月晴れに恵まれた3日間のロータリー青少年指導者養成プログラムに参加し、研修を終えられた今の気持ちは如何でしょうか？

ライラに相応しい宇賀克夫氏の基調講演や講習会、討論会等の研修を通じて技能を習得され一回りも二回りも成長されたのではないかと思います。

今回のライラは吹田江坂ロータリークラブに大変お世話になりました。

栢本淑子会長、金馬隆仁幹事、田中襄吉ライラ実行委員長をはじめホストクラブの皆様方やその他多くの関係者の皆様方のご尽力により、このような国際色豊かな、楽しく、有意義な研修会を開催していただきましたことに敬意を表すると同時に御礼申し上げます。

ライラは1971年に国際ロータリーによって正式に採用され、ロータリー奉仕の中で最も顕著かつ急速に発展しているプログラムのひとつとなっています。私達ロータリアンは皆さん若い人々がこれからの時代を背負う指導者として、

また地域社会のために奉仕を行う模範的な市民としての資質を伸ばしていただくことを期待しています。

次年度RI会長ウィリアムB・ボイド氏は新しく加えられた強調事項、ロータリー家族の中で、青少年のためのプログラムの重要性を強調されています。『あなた方、若者が私達の未来なのです』とサンディエゴでの国際協議会でも話されました。

私達2660地区としても次年度もこのライラプログラムには積極的に対応するよう考えています。

皆さんの中から将来ローターアクトやインターアクトクラブの結成や強化の柱となって下さる方、さらにはロータリアンになって下さる方、青少年交換学生や国際親善奨学生になれる方もいらっしゃるでしょう。今回のライラの経験を踏まえて、あなた方が責任ある有能なボランティア青少年指導者として成長され、リーダーとして率先してご活躍くださいますようお願い申し上げます。『明日にチャレンジ！ ひらこう未来を君たちの手で！』です。君たちの手に期待を込めて閉講の挨拶とさせていただきます。有難うございました。



国際ロータリー第2660地区青少年活動委員会
委員長 泉 博 朗

田中実行委員長をはじめ吹田江坂ロータリークラブの皆様のご尽力をもちまして、今ここに、2005-6年度春のライラが無事終了いたしました。

ほんとうにありがとうございました。なごやかなすばらしいライラであったと思います。

今回は多くの海外の若者に参加していただき、一味も二味もちがった、まるで国際ライラのようなライラとなりました。参加者の皆様は、日常では出来ない経験をすることが出来たと思います。

そして、あなたたちにとっては、時には厳しいリーダーであったかもしれませんが、あなたたちのために、頑張ってくれました、チームライラの市橋君、盛岡君、山本君、菅原さん、またいろいろお世話になりました海洋センターのリーダーの皆様にもあらためて感謝いたします。

実は、チームライラの中から希望者を6月の国際ライラ大会に派遣することとなっております。あなたたちにも、次の上級ライラを受講し

ていただき、チームライラとなって、ライラの指導者の経験をしていただければ、そのチャンスはあります。

私は、開会式より、閉会式の方が好きであります。なぜなら、閉会式では君たちのハッピーな顔を見ることが出来るからです。

私たちがあなたたちに期待することは、一人一人の力が集まって大きな力となり地域を救うことであります。

すでにあなたたちは、このライラの目的を十分に理解したことは、午前中の発表を聞いてわかりました。

若者の多くはリーダーになるような面倒くさいことを望んでいないかもしれませんが、しかし、あなたたちはいずれ、母や父になります。母や父は家族のなかでは最高のリーダーでなければなりません。まず、あなたたちの新しい家族のためにすばらしいリーダーとなることを目指してください。そしてあなたたちの夢を仲間とともに叶えて下さい。

RYLA旗引継と秋のライラPR



RYLA旗の引継ぎ

大阪そねざきロータリークラブ
会長 岡本孝子

秋のライラのPR

大阪そねざきロータリークラブ
会長エレクト 中 明 夫

秋のライラは、10月7日、8日、9日の3日間、滋賀県大津市の琵琶湖パレイで行います。琵琶湖パレイは自然に恵まれた所で、Sky Wind and Harmony。

副題は、21世紀の豊さを一緒に感じたい。自然の中に身をおいて21世紀の豊かな環境を改めて、一緒に感じたいということです。

秋のライラは、今回の初級ライラを終了された皆様、次のステップ上級ライラにチャレンジしてください。ハードで楽しいプログラムを計画しています。

基調講演は、元横綱の千代の富士関にさせていただきます。

是非たくさんのご参加をお待ちしています。

閉会の辞

3日間、皆様のご活躍を眩しい思いで見させていただきました。その中で私はサラが何気なく唱っていた“クンバイヤーマイロード、クンバイヤー”の歌を聴き50余年前のことを思い出しました。

1955年当時我が国は敗戦より少し復興に向かっていましたが、大阪、神戸は焼け跡と闇市の街でした。YMCAの国際ワークキャンプの名のもとに高校生・大学生を中心にして奉仕活動が行われました。サラと同じカナダより来日

吹田江坂ロータリークラブ

RYLA実行委員長 田中 襄吉

し、神戸女学院の先生をしていたフローレンス・フライハイトという人が、私達にこの歌を教えてくださいました。

私は、この奉仕活動を通じて多くの友人を得、人生の貴重な財産を得ました。皆様はこれより全世界に羽ばたかれることでしょう。ここで経験したこと、学んだこと、そして多くの友情を育んだことを大切にしてください。

名残は尽きませんが、ここに2005～2006年度春のRYLAを閉会します。お元気で！

手に手つないで



青少年・ロータリアン登録クラブ別表

クラブ名	青少年		ロータリアン	登録数 合計
	男	女		
大 東			1	1
大 東 中 央			1	1
東 大 阪	1		3	4
東 大 阪 中 央			2	2
東 大 阪 東		1	1	2
東 大 阪 み どり			2	2
東 大 阪 西			3	3
枚 方			2	2
茨 木		1	17	18
茨 木 東	2	1	22	25
茨 木 西			15	15
池 田			3	3
池 田 くれは		3		3
門 真				0
交 野			3	3
香 里 園			3	3
く ず は			3	3
箕 面				0
箕 面 中 央				0
守 口	1	1	3	5
守口イブニング			3	3
寝 屋 川			3	3
大 阪			9	9
大 阪 阿 倍 野		1	2	3
大 阪 ち ゃ ま ち	1		1	2
大 阪 中 央	1		8	9
大 阪 堂 島			3	3
大 阪 フ レ ン ド		1	3	4
大 阪 阪 南			3	3
大 阪 東			4	4
大 阪 東 淀	4	5	1	10
大 阪 平 野			2	2
大 阪 本 町	1		4	5
大 阪 イ ブ ニ ン グ	2		2	4
大 阪 城			2	2
大 阪 城 南				0
大 阪 城 東				0
大 阪 柏 原				0
大 阪 北			2	2
大 阪 北 梅 田			20	20
大 阪 御 堂 筋		1	3	4
大 阪 南	1	1	1	3
大 阪 中 之 島			3	3
大 阪 難 波			4	4
大 阪 な に わ			3	3
小 計	14	16	170	200

クラブ名	青少年		ロータリアン	登録数 合計
	男	女		
大 阪 南 西	1			1
大 阪 西				0
大 阪 大 手 前				0
大 阪 大 淀			2	2
大 阪 リバ ー サ イ ド			3	3
大 阪 咲 州			3	3
大 阪 西 北				0
大 阪 西 南			1	1
大 阪 船 場			3	3
大 阪 心 齋 橋			3	3
大 阪 城 北		1		1
大 阪 そ ね ざ き			24	24
大 阪 住 之 江			1	1
大 阪 住 吉	1		6	7
大 阪 天 満 橋		1	3	4
大 阪 天 王 寺			5	5
大 阪 東 南			3	3
大 阪 鶴 見	1	2	4	7
大 阪 梅 田				0
大 阪 梅 田 東			3	3
大 阪 う つ ぼ	2		1	3
大 阪 淀 川			4	4
大 阪 ユ ニ バ ー サ ル シ テ ィ			1	1
千 里			25	25
千 里 メ イ プ ル			12	12
摂 津			18	18
四 条 畷			3	3
新 大 阪	3	1		4
吹 田	1	4	35	40
吹 田 江 坂	11	7	44	62
吹 田 西	3	4	50	57
高 槻			25	25
高 槻 東			22	22
高 槻 西		1	18	19
豊 中			3	3
豊 中 南			1	1
豊 中 大 阪 国 際 空 港				0
豊 中 千 里			3	3
八 尾			2	2
八 尾 中 央			3	3
八 尾 東			2	2
R O T E X	1	1		2
3 4 5 0 地 区	3			
小 計	27	22	336	385
チ ー ム ラ イ ラ	4	1		

	登 録 数
青 少 年	79
ロ ー タ リ ア ン	506
合 計	585
チ ー ム ラ イ ラ	5

収 支 決 算 報 告 書

収 入 の 部		
ロータリアン登録料	4,048,000	8,000円/人×506人
ホストクラブ	352,000	8,000円/人×44人
IM2組RC	2,072,000	8,000円/人×259人
上記以外RC	1,624,000	8,000円/人×203人
青少年登録料	632,000	8,000円/人×79人
ホストクラブ	144,000	8,000円/人×18人
IM2組RC	136,000	8,000円/人×17人
上記以外RC	352,000	8,000円/人×44人
地区助成金	600,000	
繰越金	100,000	本町RC
合 計	5,380,000	

支 出 の 部		
海洋センター・海風館費用	1,312,520	
設 営 費 用	262,500	会場、道標等
青少年夜食・飲料水及び野外食材	397,378	
謝 礼	265,000	各種団体
保 險 料	95,000	
参加促進費	272,700	
印 刷 費	513,975	
ユニホーム等	428,240	ウインドブレーカー、Tシャツ
記 念 品	37,538	
現地視察・研修費	135,000	
会 議 費	171,269	
通 信 費	68,820	
事務用品費	142,443	
記 録 費	492,000	
ライラワークショップ費用	200,000	
国際ライラ拠出金	450,000	
雑 費	135,617	
合 計	5,380,000	

RYLA委員会組織及び役割担当表

地区ガバナー	神 崎 茂
地区ガバナー補佐	高 津 嘉 夫
地区青少年活動委員長	泉 博 朗
会 長	栢 本 淑 子
幹 事	金 馬 隆 仁
実行委員長	田 中 襄 吉
実行副委員長 (地区委員)	西 上 博 幸
実行副委員長	西 本 健 二

吹田江坂RCライラ実行特別委員	
東 秀 夫	庄 瀬 寛
延 秀 恵	田 畑 勉
榎 谷 信 彰	内 田 正
蔭 山 尚 正	渡 邊 眞
金ヶ江 裕之	渡 辺 忠 雄
木 元 良 三	山 崎 睦 治
大 森 洋 子	

委 員 会	委 員 長	副委員長	委 員
総 務	西 上 博 幸	西 本 健 二	榎木庄司、小谷敬二、田口長兵衛、米谷正夫、吉澤欣一
(司 会)		渡 邊 眞	延 秀 恵、山 崎 睦 治
(物品調達)		大 森 洋 子	西 本 健 二、山 崎 睦 治、内 田 正
(記録・広報)		大 森 洋 子	速 見 憲、北 村 康 栄、水 谷 善 博、大 井 清
会 計	東 秀 夫		西 山 俊 明
登録・受付	庄 瀬 寛	木 元 良 三	長 島 寛、寺 井 正 昭、八 橋 志 夫、金 馬 隆 仁、濱 谷 嘉 子
(接 待)		田 中 襄 吉	栢 本 淑 子、杉 本 全 司、芳 賀 洋、堀 田 稔、長 澤 義 雄、西 村 義 博、和 田 貞 雄
(救 護)		榎 谷 信 彰	蔭 山 尚 正、大 森 洋 子、田 畑 勉
プログラム	山 崎 睦 治	金ヶ江 裕之	延 秀 恵、今 村 啓 志、金 子 武 夫、北 山 陽 一、田 中 襄 吉、西 上 博 幸
設 営	内 田 正	渡 辺 忠 雄	飛 田 昭 男、赤 尾 進、田 中 茂 晴、鳥 辺 甚 吉、西 本 健 二、小 谷 敬 二
ロータリー パ パ	西 本 健 二	田 中 襄 吉	東 秀 夫、金ヶ江 裕之、木 元 良 三、金 馬 隆 仁、小 谷 敬 二、杉 本 全 司、北 山 陽 一、西 山 俊 明、大 井 清、庄 瀬 寛、田 中 茂 晴、飛 田 昭 男、内 田 正、渡 邊 眞、渡 辺 忠 雄、八 橋 志 夫、山 崎 睦 治
チームライラ	市 橋 與 宜	山 本 浩、菅 原 小 理 恵	森 岡 豊、水 谷 光 英、

編集後記

本年度春のライラは、好天气に恵まれた3日間と、参加者の約半数が外国人という今までに例のない開催となりました。海外からは、R I 第3450地区の3名が現地入りしての参加となりました。受付時の参加者は、こんなに外国人が多いとはまったく予想もしていない状況で、戸惑いを表しておりました。また、ホストを務める我々も、食物は大丈夫か、ことばの支障はないか、メンバーとうまく溶け込んでくれるか等数えれば切がありません。

しかし現在の若者は、国籍・文化そして年齢に関係なく、立派に国際交流を深めてくれました。我々は、初日どうしても固い雰囲気になることを回避させ、コミュニケーションが早く図れるように、と1日目の夕食にカレー作りを企画いたしました。具材も、肉、チキン、シーフード等各国の食文化に合うように分け、初めての共同作業をしていただきました。この段階で、全員かなりコミュニケーションが図れ、やわらかい雰囲気作りが出来ました。初日の基調講演では、「日本の技術でヨーロッパは一つになった」ドーバー海峡トンネル工事の話や、最終日の卓話では、「ロータリー創始者の青春」ポール・ハリスの青春時代の話聴き各人の考えを新たにされたことでしょうか。最後にアンケート調査を実施し、特に印象に残った内容を3つ挙げていただきました。第1番目は、カッター体験、第2番目はインタレストタイム、第3番目はキャンプファイアでした。その理由を聞くと、共通する点は、参加者一人の力より、チームワークの大切さを実感したようです。また、世界的規模で交流を体感し双方が理解を深める良い機会であったことなどが、今回の成果の一つといえるでしょう。

ホストを務めさせていただきました我々も、次代を担ってくれる青少年に期待を確信いたしました。また、クラブ会員が一丸となって取り組むことの出来たプログラムでありました。

最後に、未経験の我々に適切なるご指導をいただきました地区青少年活動委員会の皆様をはじめ大阪府立青少年海洋センター様、チームライラ諸兄姉様、関係機関の皆様、そして、R I 第2660地区各クラブ会員様のお力添えを頂き、事故もなく無事春のライラを終了させていただきましたことを感謝申し上げ、今後皆様方の益々のご活躍とご健勝を祈念申し上げます。

吹田江坂ロータリークラブ

RYLA実行委員長 田 中 襄 吉

